

学習支援推進委員会

【履修指導】

学習支援推進委員会による取り組み

目的・目標

本大学の各学部における教育理念の実現と教育目標の達成のため、2005年7月に学習支援推進委員会が設置されたことにより、全学支援体制が整い、2005年度後期より、駿河台・和泉・生田（農学部）の各キャンパスに「学習支援室」が開設された。既に、2004年度より開設していた生田の理工学部と併せて、学習支援推進委員会のもと始動することとなった。

近年の学生の多国籍化及び入学選抜の多様化は、これまでの統一的・全体的な学習指導では十分対応できていない状況になっており、学生個々の多様なニーズに対しては、柔軟でかつきめ細かい学習指導が必要となっている。

この学習支援を推進するうえで不可欠なのが、各キャンパスに設置された「学習支援室」である。学習支援の具体的な取り組みは以下のとおりである。

現状

(1) 学習支援室での学習指導

【和泉学習支援室】

2005年度は主に文学部のT A（ティーチングアシスタント）が中心となって学習支援を実施していたが、2006年度からは商学部・経営学部・情報コミュニケーション学部も加わり、より充実した支援ができる体制が整った。また、2006年度から教務採用のT Aを配置したことで、学部間共通総合講座の補助業務だけでなく、不足している部分の学習支援も多少補えるようになった。その他に、授業等で配布する資料、参考文献等を和泉学習支援室に置き、予習あるいは欠席者などに供する「教員用レファレンス」機能の設置や、スポーツAO入学生の「授業出席確認カード」の取り扱いを行っている。

問題点としては、参加学部が増えるとともに、学習支援室が手狭になっているうえ、定期試験期間中においては、試験本部として使用するため、その期間の開室が出来ないことである。

【駿河台学習支援室】

2005年度は経営学部の助手が、平日の午後のみ学習支援を実施していたが、2006年度からは、経営学部の他に商学部・文学部・情報コミュニケーション学部も加わり、全学的支援ができる体制が整った。また、和泉と同様に2006年度から教務採用のT Aを配置したことで、学部間共通総合講座の補助業務だけでなく、不足している部分の学習支援や、教室操作卓に不慣れな講師への支援等も行っている。

支援対象は、学部学生だけでなく院生も含んでおり、特に留学生の利用が多く、リピーターになるケースもある。その他に、学習支援の一環として期間限定で、web履修のための場所の提供等も行っている。

問題点としては、法学部及び政治経済学部の支援参加がないため、法律関係や経済関係の支援に対応できないでいる。

【理工学部学習支援センター】

学習支援センターを利用した学生及び所属するT Aからの改善に向けてのアンケートに基づき、具体的な改善項目を設定し、2006年度の運用を行ってきた。利用者数も当初133名であったが、学習支援推進委員会設置以降の2006年度前期には、利用者が900名を超えることとなった。また、学生が提出する質問票の内容を詳細に記載させるとともに、回答者となるT Aに対しても可能な限りデータと

して残せるような質問・回答書を作成させ、蓄積されたデータはFAQとして今後ホームページで公開することとした。

科目担当教員との連携としては、1年次必修科目の担当教員と連携を図り、必修科目終了後に学習支援センター内においてTAによるミニ補習授業を実施し、具体的な支援を行った。

問題点としては、利用者の多くが試験前の6月末から7月に集中しており、支援を受ける学生の待ち時間の増加やTAのオーバーワークに繋がっている。

【農学部学習支援室】

2005年度後期から全学的学習支援の一環として、常設の支援室が確保できたことにより、一般入試入学生も気軽に利用できる施設として、参加者が大幅に増加した。学習支援室は、スタッフが常駐する「学習相談室」（旧135教室）と、多目的室「フォローアップ室」（旧136教室）の2室から構成されている。「学習相談室」には、派遣スタッフ1名とTA2名が常駐し、学生対応をしている。「フォローアップ室」は、多人数での学習相談の他、補講やゼミ教室としても利用され、空き時間は自習室として有効に活用されている。

問題点としては、定期的に利用する学生が増加した反面、利用者の固定化が生じている。

(2) 英語未習留学生に対する補習授業

現在、本学が受け入れている留学生の中で、英語が未習であったり、学習が不足している学生がおり、それら学生の授業支援のため、2005年5月末より和泉キャンパスにおいて補習授業という形で、外部講師による授業を2コマ開講した。しかし、受講者の中には大学院生もいたため、駿河台での授業開講の要望が多くあり、2006年度後期より駿河台キャンパスにも1コマ開講することとなった。

英語に不安を抱いている留学生にとって、力強い味方となっており、充実した授業を実施している。

問題点としては、受講する学生が増えることにより、今までのようなきめ細かい支援が難しくなるうえ、受講生の中でのレベルの違いや要求の違いから、不満が出始めている。

(3) 入学前教育の実施

早期に入学が確定した学生のモチベーションを維持し、基礎学力の低下を防ぐため、2005年度より生田キャンパスにおいて、理工学部及び農学部の特別入試入学者を対象に、英語と数学の通信添削による入学前教育が実施されている。外部業者に委託（課題及び解答解説の作成、採点添削、発送業務、報告書の作成）して行っており、12月から翌年の3月かけて3回実施している。受講した学生のアンケートの統計によると、学力が伸びた・受講して良かった・役に立った等が約8割を占め、着実に成果を収めている。

問題点としては、このような形式で実施しているのは、生田キャンパスの理工・農学部だけで、まだ、全学的広がりを見せてない。

(4) 補習講義の実施

既に農学部では、2004年度後期より基礎学力不足が認められる特別入試入学者の1・2年生を対象に、短期集中で高校レベルの基礎について、「フォローアップ補習授業」を実施していたが、2005年後期に学習支援推進委員会が設置されたことにより、生田学習支援プログラム「補習講義」（フォローアップ講座）として実施している。農学部・理工学部の特別入試入学者1・2年生のほか、一般入試入学者や他地区の文系の学生も対象として、短期集中で前後期各1回実施している。開設科目は、「化学」「生物」「物理」「英語」「数学」の5科目で、高校の基礎を外部業者及び付属中の高校教員の協力により、各自が必要に応じて参加できるよう、一回完結スタイルで実施している。

問題点としては、参加者が増えるにつれて、習熟度の差が顕著になり始め、一部の学生から不満が出ている。

(5) 広報活動

2005 年度（2006 年 3 月）に「学習支援室」を周知徹底するため、ホームページを開設し、学習支援室の概要、利用案内、各キャンパスの学習支援室の詳細等についてお知らせできるようになった。また、2006 年 4 月には、新入生に向けてリーフレットを 3,000 枚作成し、各学部配布することにより、より認識を高めた。そして、2007 年 4 月には、学習支援室の P R のため「明治大学学習支援」パンフレットを 20,000 部作成し、スポーツ入学者ガイダンスや新入生の父母説明会等で配布を予定しており、内外への周知を図りたい。

(6) スポーツ入学者横断授業の設置

なかなか授業に出席できない体育会所属の学生の中でも、基礎学力不足が認められるスポーツ特別入試入学者（公募制・AO）のうち、2005・2006 年度入学者を対象に、2006 年 4 月より法・商・政経・文・理工学部がこれらの学生を対象とした英語科目を設置し、設置学部間で授業を履修できるようにした。2007 年度からは、スポーツ特別入試入学者（公募制・AO）全学年を対象とし、更に、経営・情報コミュニケーション学部が英語科目設置に加わり、7 学部 15 コマ、また、英語科目だけでなく、ドイツ語科目が法・商・政経・文・経営学部の 5 学部で 7 コマ、フランス語が文学部で 1 コマ、中国語が商・政経・経営学部の 3 学部で 4 コマ設置される予定である。

このことにより、これらの学生にとって更に、勉強する環境が整いつつある。

問題点としては、これらの設置科目について各学部が自学部優先、再履修者不可、他学部再履修者不可等の条件が付いているため、本当の意味での全学部横断授業になっていない点である。

(7) 体育会所属学生への「授業出席確認カード」の実施

スポーツ特別入試入学者（公募制・AO）に対する、大学のサポートが重要となってきた昨今、学生の授業出席向上を図るため、2006 年度より、これらのスポーツ特別入試入学者（公募制・AO）1 年～4 年を対象に、「授業出席確認カード」を導入することとなった。この「授業出席確認カード」は 1 科目 1 枚を使用し、授業後担当教員のサインをもらい、半期に 1 度各学習支援室で回収している。これら提出された「授業出席確認カード」を、部別・学部別・学年別に集計し、各部の監督及び部長に資料として送付し、今後の学生指導に活用している。

問題点としては、対象であるスポーツ特別入試入学者（公募制・AO）に対して、「授業出席確認カード」の周知をどのように徹底するかである。

改善方策

(1) 学習支援室での学習指導

【和泉学習支援室】

学習支援室の配置場所については、今後の和泉キャンパス全体の構想の中で、検討する必要がある、要望等について所属長及び関連する委員会等で説明していく。

【駿河台学習支援室】

学習支援室での支援に参加していない学部については、賛同を得るため、学習支援推進委員会等でその必要性について該当学部説明し、今後の参加を促し、学生にとってより良い支援を目指す。

【理工学部学習支援センター】

支援を受ける学生の待ち時間や T A のオーバーワークを改善するため、質問票の分析をしたところ、同時期に同一内容の質問が集中することが判明した。今後は、集中する質問をテーマにした T A による補習授業を設定し、解消を図っていく。

【農学部学習支援室】

今後、学生の利用を伸ばすためには、大学で提供する支援策と学生が求める支援が必ずしも一致していないケースを改善するため、全学的規模でのアンケートを実施し、学生のニーズに対応できる支援を目指す。

(2) 英語未習留学生に対する補習授業

受講生増加により、個々の学生に合わせて授業を実施することが難しく、レベルや要求の違いもあるため、今後、コマ数を増やすことも考慮している。また、この補習授業を正規科目として取り扱うべく、学習支援推進委員会では発足時より検討している。

(3) 入学前教育の実施

学部によっては、何らかの入学前教育を実施している学部もあるが、学生のモチベーションを維持し、基礎学力低下を防ぐような体制はとられていない。今後、学習支援推進委員会において入学前教育のあり方、実施及び導入について検討していく。

(4) 補習講義の実施

補習講義の参加者増加により、習熟度の差による不満が出ているが、それらを解消するために、習熟度別講義の設置について検討していく。

(5) 広報活動

HPの開設、リーフレットの作成、パンフレットの作成と進めてきたが、今後も学習支援委員会等で意見を聞きながら、更なる充実を図っていく。

(6) スポーツ入学者横断授業の設置

現状において、各学部の設置科目については何らかの付帯条件がついている場合が多く、必ずしも本当の意味での全学部横断授業になっていない。各学部それぞれ事情もあるが、学生にとってより良い支援になるよう、更に学習支援委員会等で検討していく。

(7) 体育会所属学生への「授業出席確認カード」の実施

対象であるスポーツ特別入試入学者（公募制・AO）に対しての周知の方法として、各部の主務を対象に3月末に説明会を開催し、「授業出席確認カード」の導入理由や必要性について話している。また、4月初めに開催される各学部のスポーツ入学生に対する説明会においても、学習支援室担当者が出向いて話している。

以 上